

8-6

主題 爪切りが利用者と職員を変える

爪切り

副題 定期的な爪切りとフットケアの取り組み

意識改革

研究期間 4ヶ月

事業所 特別養護老人ホーム 多摩の里けやき園

発表者：鈴木 友梨（すずき ゆり）

アドバイザー：隅内 晶子（すみうち あきこ）

共同研究者：山本 義之・市川 佳澄・相馬 修

電 話 042-460-8151

メール

FAX 042-460-8152

URL

<http://www.enseikai.com>今回発表の
事業所や
サービスの
紹介

平成17年に開設しました114名定員のユニット型特養です。全室個室でゆとりのある居住空間を提供しています。「その人らしさを大切に」の法人理念のもと、ご利用者が快適に過ごせるように自立支援を行っています。

《研究前の状況と課題》

ユニットでの爪切りでは手指の爪切りのみになってしまい、足の爪や皮膚の観察が十分に行なえていなかった。その為、定期的な爪切りや下肢の皮膚の観察を行ない、皮膚トラブルの軽減が必要だと感じた。

職員に爪切りのアンケートを実施したところ、全職員が定期的な爪切りが必要だと感じていた。また半数以上の職員が爪切りやフットケアが十分に行なえていないとの回答が得られた。爪切りが行なえていない理由として、皮膚を切ってしまうのが怖い、爪が厚くて切りづらいなどの意見があった。これらは職員の知識、技術不足が原因であると捉え、実施にあたり、看護師からの研修及び指導を受けた上で安全な爪切りの方法を習得し、ご利用者のフットケアのより良い実践を行なうことが課題だと考えた。

《研究の目標と期待する成果》

研究の目標

- 定期的な爪切りの実施。
- 積極的に爪切りを行なえるようになる。
- 皮膚トラブルの軽減を図る。

期待する成果

- 職員の不安を取り除き定期的な爪切りの実施。
- 全職員が統一した知識や技術を習得することで、積極的に爪切りを実施する。
- フットケアを取り入れることで皮膚トラブルの軽減を図る。

《具体的な取り組みの内容》

実施方法

- 爪切り、フットケアについて事前アンケートにて意識調査を行なう。
- 看護師から爪切りについての指導及び研修を受ける。
- 爪切り、フットケアの方法を習得、統一する為、マニュアルを作成する。
- 入浴時に手足の観察を定期的に行なう。
- 爪切り確認表を作成し、定期的な実施が確認できるようにする。
- 爪、角質が軟らかくなる入浴後に、手指と足指の爪の状態を確認し爪切りを実施する。
- フットケアは入浴日以外の週2日を実施日とし、足浴やアロママッサージを行ないリラックス効果と血行促進を図る。
- 取組み1か月後に再度職員の意識調査アンケートを行ない、実施に不安のある職員には個別に指導を行なう。

《取り組みの結果と評価》

- 職員が互いに声をかけあい定期的な爪切りが行えるようになった。
- 足浴やアロママッサージを行なったご利用者からは下肢の乾燥が軽減された。またリラックスされ気持ちが良かったと喜んでいただくことができ、さらに下肢の痛みが軽減されたとの声も聞かれた。
- 知識、技術の習得ができたことにより職員の爪切りへの意識の変化が生まれ、積極的に声掛けを行い、爪切りが行なえるようになった。
- 職員一人ひとりがやりがいを感じることで、ケアに対するモチベーションの向上にも繋がった。

《まとめ》

- 整容の一つである爪切りを行なったことで、身近なケアを改めて見直すことができた。
- 今後も、ケアの見直しを行ない職員間の意見交換をした上で、より良いサービス提供を目指す。

《提案と発信》

【メモ欄】